

食事行動をとるインタフェースエージェントを利用した 発想支援の研究

Study of idea generation support by usage of dining agents

学籍番号：201221617

氏名：劉 蕊

Rui LIU

創造性は、人間の社会的、文化的、また、日常的活動を支える重要な能力である[2]。例えば、企業活動においてはビジネスプランやビジネスアイデアが社運の核ともいえる内容であったり、会議において議論される内容は今後の方針を決める重要な内容であったりすることがほとんどである。

情報技術の発達に伴い、情報を提供したり、説得することを行う対話エージェントに着目する研究が多くなされている。傾聴することを目的とした対話エージェントに向けた研究も始まっているが、どのように設計すべきかについてはまだ発展途上である

会話相手が食事をしていると、食事をしていないもう一方がよく話すようになるという現象が認められている。

本研究では、この現象を利用して発想支援につなげられないかという考えから、自動的に食事行動を起こす身体的エージェントを開発し、その効果を調べた。食事行動をとるエージェント（食事エージェント）、食事行動をとらずにただいるだけのエージェント（非食事エージェント）、そしてなにもない（無エージェント）という3条件でアイデア創出タスクを行ったところ、発想支援についての有効性は確認できなかったが、食事エージェントに対してより視線を向けていることなど、いくつかの興味深い行動が見られた。

研究指導教員：井上 智雄

副研究指導教員：鈴木 誠一郎